

20140510 現代政治戦略研究会

2015年統一地方選盛り上げシリーズ！

テーマ 「若手地方議員の仕事 ～地域課題の発見と共有のためのコミュニケーション～」

日時：2014年5月10日（土）15:00-18:00

場所：東京・竹橋 ちよだプラットフォームスクウェア

発表者：河井しほさん（中央区議会議員）

清家あいさん（港区議会議員）

参加者：参加者 11人（発表者除く）

（財務コンサルタント、会社経営者、会社員、研究者、
NPO法人理事長、行政書士・司法書士など）

質問事項：

- ①議員になって実現しようとしていること、具体的政策
- ②議員になってこれまでに実現したこと
- ③議員になる前となった後での議会や議員のお仕事に対する理解のギャップ
- ④有権者とのコミュニケーション方法

河井しほさん：

- ①議員になって実現しようとしていること、具体的政策

毎週土曜日、月曜日～金曜日のスケジュールを **BLOG** に掲載しています。中央区は東京オリンピックがホットな話題になっています。選手村の整備と交通の整備です。それでも、**BLOG** を見て初めて、そんな大事なことがやり取りされているのを知らなかったという区民がいらっしゃいます。また、行政の情報発信は縦割りになっています。この **BLOG** では横断的に情報発信をしています。

福岡出身です。父は転勤族でしたので、生まれ故郷と呼べるものはありません。中央区は地方から出てきた人が多く住んでいます。そういう人口の割合が多いのであれば、中央区出身者以外も議員になって良いのではないかと考えました。また、区外出身者の意見を反映させたくて議員になりました。

中央区の区域には銀座、日本橋があります。三代続かないと中央区民とは言えないという、京都みたいな地域があります。かと思うと、勝どきや月島など高層マンションの地域もあります。この地域に人口の半分ぐらいが住んでいます。私は中央区民歴、10年未満です。職住近接でした。丸の内の職場まで自転車通勤をしていました。職場までの間に保育園に子どもを預けていました。こういう経験から、がんばっている人の声を議会に届けたいと考えました。

中央区のトピックの一つとして、築地市場の豊洲への移転決定があります。築地市場の跡地利用をどうするか、世界的な食のブランドをいかに守るかという課題があります。

中央区は昔からの地域と人口が最近になって増えている地域がミックスしています。まちづくり協議会は行政と住民代表の意見交換の場です。しかし、昔からの住民しか代表に選出されません。ここに不公平を感じました。地域のお祭りでは、新しい住民はお神輿を担ぐこともできません。昔からいる人と新しく入ってきた人をつなげる必要があります。

副区長から教えていただいた言葉に「住民が交わる機会は、①学校、②防災、③祭り」があります。仕組みというよりは、ゆるい感じでのコミュニケーションの場をつくりたいと考えています。たとえば、勝どきにてマルシェが開催されています。コミュニケーションの場になっています。ただし、効果の測定が難しいです。

まちづくりでどういう議論が区議会で行われているかは区議会のサイトからではわかりません。議員がBLOGで発信するしかありません。

②議員になってこれまでに実現したこと

中央区は人口が増えています。待機児童の問題が深刻です。私は人口増加に対応した施設整備をライフワークとしています。たとえば、都営地下鉄大江戸線、勝どき駅のホーム増設を要望しました。環状2号線整備における安全性についても要望しました。

③議員になる前となった後での議会や議員のお仕事に対する理解のギャップ

区議会議員になってのギャップですが次のとおりです。11年間、金融機関に勤めて、議員になりました。金融機関では仕事の結果が評価されて報酬をもらっていました。議会にいと、座っているだけで質問しなくても、議員報酬は変わりません。理解に苦しむところです。委員長、副委員長のポストがつくと報酬に付加されることはあります。現在、無所属となり、一人会派となりました。議会は会派が基本です。一人会派は想定されていませんでした。会派の長たちで話し合っ決めていました。一人会派だと、質問時間が半分に減らされてしまいます。政治とはほんとうにこういうものなのか？と考えています。

④有権者とのコミュニケーション方法

コミュニケーションについては次のとおりです。地方だと、地域ごとに時間を決めて住民に集まってもらって講演を行うなどができます。中央区だとこれが異なります。家庭の中での票の取り合いがあります。また、高層マンションだとポスティングが難しいです。このため、駅頭演説を行っています。朝は通り過ぎる方が多いですが、夕方は声をかけてくれる方が少なからずいます。

Facebookでの発信に軸足を移しています。ホットなネタだとシェアしていただくことがあります。しかし、知らぬところでいつのまにやら意図と違うことになっているというデメリットもあります。Twitterは情報収集用に始めていますが、中央区の情報についてリツイートしています。

清家あいさん：

①議員になって実現しようとしていること、具体的政策

港区生まれ、港区育ちです。新聞記者をしていましたが、結婚・出産を機に退社しました。そこで気付いたのが、港区の子育て支援の状況がひどすぎるということです。港区も湾岸のタワーマンションに子育て世帯がどっと流入しました。しかし、子育てインフラは整っていません。

②議員になってこれまでに実現したこと

港区ではこの1年で、私立認可保育園を13園増やし、史上最大の1300人以上の定員拡大を行ったことで、今年4月の待機児童も約200人から47人に減りました。子育て中のお母さんたちから毎日のようにメールで陳情や意見、提案を受け、それらを区に要望してきました。たとえば、双子に対する配慮がまったくなく、双子を別々の保育園にするのが当たり前でした。二人分でものすごい荷物になり、ベビーカーが大きすぎるため、公共交通機関の利用も難しく、2つの保育園を回るのはとてもたいへんです。一つ一つ課題を解決してきました。障害児保育園の必要性もあります。障害があると保育園入園に、いろいろな条件がつき、健常児に比べて不利なうえ、医療的ケアが必要な子供は入所が厳しい現実があります。新しい保育園が増えたのですが、園庭がないという問題もあります。子どもにとって園庭がないというのはどうか。プールもそうです。しかし、それらは港区役所のいろいろな部署にからんでいるので、部署横断的な取り組みが必要になってきます。

③議員になる前となった後での議会や議員のお仕事に対する理解のギャップ

議会の印象についてですが、新聞記者として地方議会の傍聴をしていました。正直、眠たかったです。また、地方議会選は投票率もあまりに低いです。議会改革の必要性を感じて、いろいろ試みました。議会は党派中心の運営です。港区は自民、公明、民主などで区長与党となっています。私は民主党所属ですので、与党のメリットというものがよくわかりましたが、二元制の地方議会では与党と野党にわかれているのは、正直違和感もあります。地方議会は傍聴がほとんどなく、マスコミによる情報発信も少ないので、議会、議員による情報発信の必要性を強く感じます。

ただ、地方政治を大きく変えるなら、首長が重要になってきます。千葉市の熊谷市長は全国最年少市長として当選されて、現在2期目ですが、わたしより4歳も若く、数々の改革を行っている姿勢に感銘を受けました。敵対勢力を大きな声で批判するのではなく、取り込んでいかなないと改革は難しくなることなどを学ばされます。また、千葉市政のICT化の取り組みや、特に市民の携帯電話番号を収集している点などに、市長が、情報発信が地方自治体の課題であるという認識を持ち、先を見て手を打っていることがわかるし、今後の千葉市政に大きな可能性を感じます。

④有権者とのコミュニケーション方法

コミュニケーションは、子育てをしているお母さんたちからメールや SNS のメッセージを通じて陳情を受けることが圧倒的に多いです。意見交換会なども開催しています。また、BLO

Gやフェイスブックから情報発信を行っています。港区が地元で、地元の方々にも応援していただいているので、町会や自治会、商店街など団体の会合や祭りなどにも必ず出ていますし、そういった場で意見交換をさせていただいています。

以上